

第 54 回日本医療薬学会公開シンポジウム 開催報告書

第 54 回シンポジウム実行委員長 直良浩司
(島根大学医学部附属病院 薬剤部)

平成 26 年 8 月 9 日 (土) に松江市の松江テルサにおいて、第 54 回日本医療薬学会公開シンポジウムを開催いたしました(主催:日本医療薬学会、共催:島根県病院薬剤師会、島根県薬剤師会)。島根県では平成 13 年に第 9 回が開催されて以来、13 年ぶりの開催となりました。当日は台風 11 号の接近により、雨風の強い悪天候となったにもかかわらず、県外からの参加者を含む 119 名の方々にご参加いただきました。職種別では、病院薬剤師が 111 名と最も多く、保険薬局薬剤師 6 名、大学教員 1 名、行政薬剤師 1 名の内訳でした。

今回のシンポジウムのテーマは「チーム医療における薬剤師職能のさらなる展開へ向けて」といたしました。病院薬剤師においては病棟薬剤業務の充実、保険薬局薬剤師にあってはプライマリケアや在宅医療への積極的な関与など、チーム医療における薬剤師業務の比重や期待はますます大きく、幅広くなってきています。そのような中、本年 1 月に日本学術会議薬学委員会の「チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会」より、「薬剤師の職能将来像と社会貢献」と題した提言がまとめられました。提言では、病院薬剤師や保険薬局薬剤師を含む我々薬剤師の果たすべき役割や求められる資質について述べられており、これからのチーム医療を考える上でも重要な内容となっています。本シンポジウムでは、この提言をまとめられた分科会の委員長を務められた神戸大学医学部附属病院教授・薬剤部長の平井みどり先生に基調講演をお願いしたほか、様々な領域のチーム医療においてスペシャリストとしてご活躍中の 4 名の先生方より、各分野での薬剤師職能についてご講演をいただきました。

基調講演「薬剤師の職能将来像と社会貢献～日本学術会議の提言をいかに実践するか～」において、平井先生は医療専門職としての倫理観を持ち、自律した薬剤師であることが求められることや、チーム医療・地域医療の中での薬剤師職能の幅の広がりや Pharmacist-Scientist としての臨床研究への積極的な取り組みへの期待を述べられました。精神科専門薬剤師としてご活躍の創精会松山記念病院の梅田賢太先生からは、精神疾患領域における薬学的ケアの特殊性と必要性をわかりやすく解説いただきました。尾道市公立みつぎ総合病院の増田修三先生には、地域医療への薬剤師の関わりが進んでいる尾道地域での地域包括ケアシステムと栄養サポート体制をご紹介いただきました。島根県立中央病院の寺西正充先生は、救急認定薬剤師として救命救急センター常駐業務を担当しておられ、薬剤師による疑義照会や処方提案が適正な薬物療法へ寄与することをご報告いただきました。倉敷成人病センターの今村牧夫先生からは、早くから取り組まれているがん専門薬剤師外来についてご紹介いただき、業務が医療スタッフや患者さんから高い評価を受けていることを示されました。いずれも薬剤師の貢献が今後ますます重要視される領域であり、講演後の総合討論においては、人材育成や後進の指導などについてもディスカッションが展開されました。

最後になりましたが、荒天の中、遠路お越しいただきすばらしいご講演を賜りました講師の先生方を始め、最後まで熱心にご参加いただいた参加者の皆様、そして会場準備や企画・運営にご支援・ご尽力いただいた島根県病院薬剤師会・島根県薬剤師会の関係各位、さらには準備段階から種々ご対応いただきました日本医療薬学会事務局の皆様にご心からお礼申し上げます。